大　高　緑　地　将　来　構　想　（原　案）

1　リニューアルコンセプト

受け継ぎ　磨き　未来を創る

＜基本方針＞

〇60 年以上続く大高緑地の歴史（※）を受け継ぎ、園内の自然や周辺環境との調和を図りながら、新たな公園へと進化させる

〇整備にあたっては、民間活力の導入を含め、限られた財源で公園価値を最大限に高める事業手法を選択する

〇アジア・アジアパラ競技大会を契機に生まれたスポーツへの関心や感動を未来の公園づくりにつなげる

（※）大高緑地の主な歴史

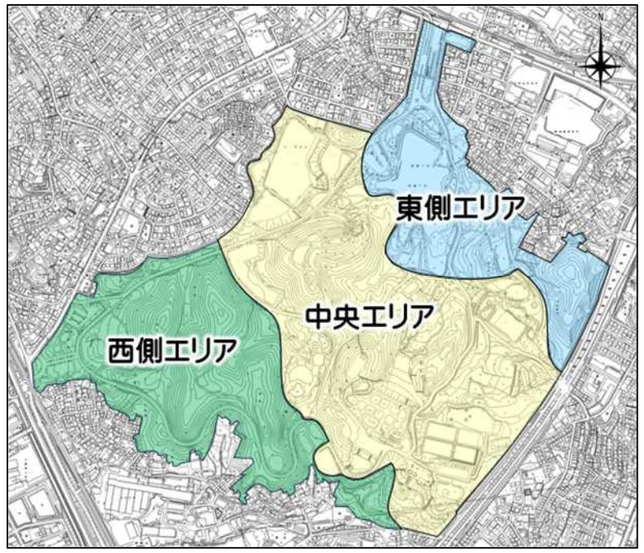
【開園】 1963 年	【拡大期】 1966 年～2000 年代初頭		【成熟期】 1989 年頃～		【現在】 2025 年 10 月～
大高緑地開園	公園エリアを順次拡大		大型イベント/民活導入		将来構想の検討
開園 （花木園エリア）	1966 年	交通公園	1989 年	あいち都市緑化フェア開催	未来の大高緑地づくりに着手
	1969 年	若草山	2014 年	サムライ・ニンジャ・フェスティバル開催	
	1970 年	野球場			
	1971 年	プール	2016 年	ディノアドベンチャー名古屋開業（民間活力の導入）	
	1977 年	テニスコート			
	1985 年	さくらの園	2021 年	若草山芝生広場に人工芝、排水施設整備（大規模イベント機能を拡充）	
	1990 年	ゲートボール場			
	1996 年	多目的広場			
	2001 年	デイキャンプ場			
	2008 年	ドッグラン			

2　将来構想

＜目指す姿＞

豊かな自然と多彩な魅力が人々を惹きつけ、何度でも訪れたくなる大高緑地

（約 121ha と広大で、多様な特徴を持つ大高緑地を「西側エリア」「中央エリア」「東側エリア」の３つに分け、それぞれのエリアの特性や魅力を生かした公園づくりを進める）



〇西側エリア【約 34ha】

広大な緑に囲まれた西側エリアでは、もともとの地形や自然を生かし、都心の身近なオアシスとして「自然を体感」できるよう公園整備を進める

〇中央エリア【約 63ha】

公園の中心部である中央エリアでは、スポーツやイベントを通じて多くの人々が集い、「様々な賑わいや交流」が生まれるよう公園整備を進める

〇東側エリア【約 24ha】

左京山駅方面からの公園の玄関機能も担う東側エリアでは、池や湿地などに生息する動植物との共生も図り、「水や緑の憩いの場」として公園整備を進める

3　今後の取組

現在（2025 年度･2026 年度）	2027 年度･2028 年度
将来構想の策定	**事業計画の策定**
・現状調査 ・サウンディング ・県民アンケート ・環境調査　などを経て **「将来構想」を策定**	・測量調査 ・地質調査 ・プッシュ型サウンディング等民活導入の検討 ・関係機関調整　などを経て **「整備施設、事業手法、総事業費」を決定**